

令和3年3月17日

国内美術館収蔵品情報可視化のための検索システム搭載 日本における現代アートに関する基盤情報を日英バイリンガルで発信するウェブサイト 「Art Platform Japan」(ベータ版) 一般公開

文化庁は、「文化庁アートプラットフォーム事業」(事務局：国立新美術館)において、日本の現代アートに関する基盤情報を国内外へ発信するウェブサイト「Art Platform Japan」(ベータ版)を3月15日に一般公開致しました。

<ウェブサイト「Art Platform Japan」(ベータ版) >

URL : <https://artplatform.go.jp/> (言語：日本語／英語)

日本における現代アートの持続的発展を目指し、2018年5月に始動した文化庁アートプラットフォーム事業は、現代アート関係者の意見を幅広く集約し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進してきました。本ウェブサイト「Art Platform Japan」は、以下の3つのコンテンツを軸に、情報を公開・随時更新することを通して、国内外の研究者、キュレーター、アーティスト、学生、美術関係者や愛好家の皆さまに、調査研究の一助としてご活用いただくプラットフォームとしての役割を果たします。

<「Art Platform Japan」の主なコンテンツ>

① 全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」

日本全国の美術館に収蔵されている作品情報の可視化および国際共有化を目指し、全国の登録博物館、博物館相当施設等のご協力を得て収集した美術館収蔵品データを集約したデータベース。3月15日時点では全国85館、約7万件の収蔵品情報および1,243件の作家情報を公開。国内外の美術研究者等が特定の作家について調査・研究し、作品の所在情報を収集することを可能にする本格的なシステムの実現のため、2022年度末までに、200館以上、約10万件の情報公開を目指し、情報を拡充予定。

② 英訳文献

日本の現代アートの国際的な評価を高めることにつながる研究を喚起するため、特に需要が高いと考えられる戦後美術を対象とした未英訳のテキスト(単行本、評論、学術論文、カタログ寄稿文等)を英訳し、PDFで公開。2022年度末までに、約100本の文献を翻訳対象として選定し、翻訳が終了したものから随時掲載予定。同時代の文献が英訳されやすくなるような土壌づくりにも寄与するため、専門性の高い美術翻訳に関するスタイルガイド等の翻訳リソース等も順次公開。

③ プログラム

専門家同士の国際的な相互ネットワーク拡充を目的として開催されてきたワークショップやシンポジウム、連続ウェビナー、また、国際的な評価を高める上で重要な機会を得た作家への支援等に関するアーカイヴ記事を順次掲載。国内外の様々な情報源や人とのつながりが生まれ、強化されることにより、具体的なアイデアの交換や将来の共同研究および国際的な展覧会の実現につながる機会へとつなげていくことを目指し、今後も様々なプログラムを開催予定。

上記3つのコンテンツ以外にも、日本の現代アートに関する基礎調査情報(国内美術館における現代美術展や海外で開催された日本の現代美術展、戦後日本におけるギャラリー史の調査結果など)も順次公開します。

<担当> 文化庁 文化経済・国際課
課長補佐 林 保太 (内線 4847)
連携推進係 関谷 泰弘 (内線 4844)
電話：03-5253-4111 (代表)

<「Art Platform Japan」立ち上げの背景>

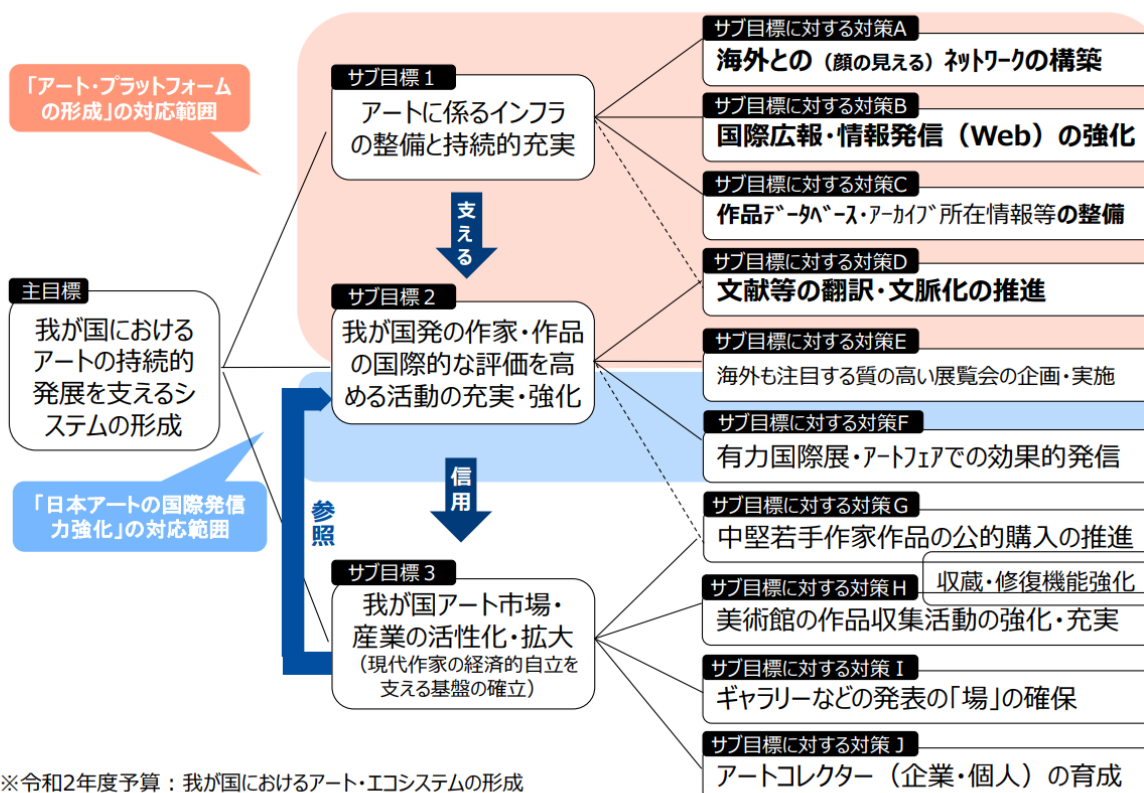
「文化庁アートプラットフォーム事業」は、日本における現代アートの持続的発展を目指し、現代アート関係者の意見を幅広く集約し、日本人及び日本で活動する作家とその作品が国際的な評価を高めていくための取組等を推進するものです。ステアリングコミッティーとして「日本現代アート委員会」（座長：片岡真実 森美術館館長）を設置し、実践的研究を進めるための国際的な専門家ネットワーク構築に取り組むとともに、日本における現代アートに関する重要なテキストの翻訳や全国の美術館を横断した作品情報のデータベース構築、ウェブサイト等を活用した国内外への発信に向けた取組み、若手作家を含めた日本におけるアーティストの国際な活動を後押しする活動を行います。

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/artplatform/index.html

「日本はこれまでも、国際的にも評価の高い優れたアーティストを輩出してきており、特に戦後は、欧米に次いで多数の作家と作品を重層的に生み出してきましたが、日本の現代アートの価値付けや評価は、長らく欧米からの逆輸入という形で行われてきました。日本の現代アートを取り巻く現場は、作家や美術館、研究者、キュレーター、ギャラリスト、コレクターなどの関係者・関係機関が個別に努力し支えてきましたが、それら関係者の活動を全体的に把握し、必要な情報発信を行ったり戦略に基づいた支援を行うことができなかったため、資金調達や、人材育成等様々な面で、限界や不都合が生じているのが現状でした。」（平成 26 年 10 月「現代美術の海外発信について「論点の整理」」より、一部抜粋・要約）

https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kondankaito/gendaibijutsu_kaigaihashin/pdf/kentokai_ronri.pdf

そのような歴史を背景に、文化庁アートプラットフォーム事業は 2018 年 5 月始まりました。本事業では、様々な立場の現代アート関係者の意見を反映することを重視しています。以下の個別の課題とその克服に向けた複合的な動きを通して、世界における現代日本アートの評価向上に資するためのアート・エコシステムの形成に向けた役割や機能を担うことを目指しています。



本ウェブサイト公開にあたり、日本現代アート委員会委員の談話を記載します。

片岡真実（森美術館長／日本現代アート委員会 座長）

現代アートがグローバルな共通言語となり、国や地域の枠組みを越えた美術館活動、研究、制作などが行われている今日、国内におけるさまざまな芸術活動にも、それらがいかに世界や歴史と繋がっているのか、という意識が求められています。日本の現代美術の持続的発展、国際的な評価の拡大などを目的に、日本現代アート委員会では、2018年度より、積年の課題だった国内美術館収蔵品のバイリンガル・データベース化、主要文献の翻訳、人的ネットワーク構築のためのワークショップなどに取り組んで参りました。その成果を世界に向けて可視化するプラットフォームとして、この度、ウェブサイト「Art Platform Japan」がローンチされたことは、目指すところの第一歩です。今後、このサイトが継続的に更新され、物理的な渡航の有無に関わらず、日本の現代アートをこの広い世界、長い歴史と接続し続けていくための重要な基盤となることを心から願っています。

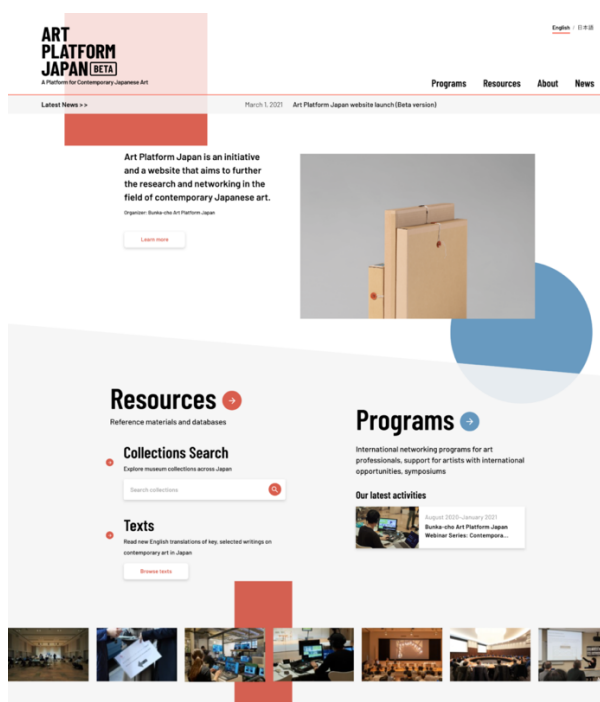
大向一輝（東京大学大学院人文社会系研究科 准教授／収蔵情報活用分科会 委員）

組織横断型のデータベースを構築する際には、データ整備の体制作りと品質の確保が大きな課題になります。全国美術館収蔵品サーチでは、各美術館の継続的なご尽力によって作成されたデータを、本事業に関わる専門家が自ら汗をかいて整理することで、統合的な処理が可能になっています。これにより、システム全体の構成がシンプルになり、短期間でのサービス提供につながるとともに、中長期的なデータの拡充についてもコスト面での予測が容易になりました。また、検索機能のスピードが速い点は高く評価したいと思います。多様な収蔵品情報をさまざまな観点から探索できる環境から、新たな利活用の取り組みが生まれることを期待します。

加治屋健司（東京大学大学院総合文化研究科 教授／日本現代アート委員会 委員）

現代アートは、グローバルな状況の中で制作、展示、研究される機会が増えています。日本の現代アートもまた、その歴史的な作品も含めて、こうした状況の中で注目を集めて議論の対象となりつつあります。国内美術館の収蔵品のデータベース、日本語で書かれた重要な文献、そして、日本の現代アートに関する様々な基本情報を英語で提供したり、海外の専門家を交えて議論を重ねたりすることは、日本の現代アートの制作、展示、研究を活性化して豊かにしていくものと考えます。こうした事業に持続的に取り組むことで、日本の現代アートが、その歴史や言説とともに、世界の現代アートとして評価されていくことを期待しています。

<ウェブサイト「Art Platform Japan」の主なページ>



Art Platform Japan トップページ

全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」：検索結果の例

全国の登録博物館、博物館相当施設等のご協力を得て収集した美術館収蔵品データを様々な条件で検索可能。

The screenshot shows the search results for 'painting' on the ART PLATFORM JAPAN website. The search bar contains 'painting' and the results are sorted by relevance. The first three results are:

- 堂本尚部** DOMOTO, Hisao: 絵画 (Painting), 1903, oil on canvas/framed, The National Museum of Modern Art, Kyoto.
- 小林正人** KOBAYASHI, Masato: 画く力 (Painting), 1994, oil on canvas, The Niigata Prefectural Museum of Modern Art / The Niigata Sendaijima Art Museum.
- 清川泰次** TAJI KIYOKAWA: Painting No.427980, 1979-80, Acrylic on canvas, Shizuoka Prefectural Museum of Art.

The screenshot shows the search results for 'painting' in Japanese on the ART PLATFORM JAPAN website. The search bar contains 'painting' and the results are sorted by relevance. The first three results are:

- 堂本尚部** DOMOTO, Hisao: 絵画 (Painting), 1903, 油絵, 額装, The National Museum of Modern Art, Kyoto.
- 小林正人** KOBAYASHI, Masato: 画く力 (Painting), 1994, 油絵, 額装, The Niigata Prefectural Museum of Modern Art / The Niigata Sendaijima Art Museum.
- 清川泰次** TAJI KIYOKAWA: Painting No.427980, 1979-80, アクリル絵具, キャンバス, Shizuoka Prefectural Museum of Art.

全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」：詳細検索画面

The screenshot shows the detailed search filters page for 'painting'. The filters include:

- APJ ID: W1001
- Dimensions/Duration
- Classification: 絵画, 彫刻, 版画
- Inscriptions/Marks
- Artist: 堂本, アイヅワ, Ai-mitsu
- Collection
- Title and Series title
- Accession number
- Year: From 1911 to 1999
- Provenance
- Medium: キャンバス, アクリル, キャンバス, キャンバス
- Exhibition History

The screenshot shows the detailed search filters page in Japanese for 'painting'. The filters include:

- APJ ID: W1001
- 寸法, 時間等
- 分類: 絵画, 彫刻, 版画
- 署名
- 作家名: 堂本, アイヅワ, Ai-mitsu
- 所蔵
- 作品名およびシリーズ名
- 所蔵番号
- 制作年: From 1911 to 1999
- 来歴
- 材質, 技法: キャンバス, アクリル, キャンバス, キャンバス
- 展覧会歴

Texts ページ

戦後美術を対象とした未英訳のテキストを英訳・PDFで公開。

The screenshot shows the Texts page on the ART PLATFORM JAPAN website. It features a list of text items with filters for Themes and Reading Lists.

- Fiction Function! World Stakes/History Shares: A Rule Book for the World History Game (1991)** by Ohzaki Kenji, Takaki Hitoshi, Sawaragi No. Posted: 2021-03-01
- Air and Water (1970)** by Fukaya Fuyuko. Posted: 2021-03-01

The screenshot shows the English Literature page on the ART PLATFORM JAPAN website. It features a list of English literature items with filters for Themes and Reading Lists.

- FICTION FUNCTION! 世界の精金・歴史の配当 世界史ゲームのためのルールブック (1991)** by 岡崎健二, 田崎英明, 澤木野衣. Updated: 2021-03-01
- 空気と水 (1970)** by 中津英二子. Updated: 2021-03-01

Programs ページ

本事業で開催したプログラムのアーカイブを順次掲載。

As well as hosting annual invitational workshops to facilitate communication between fellow experts, we are also convening international symposia and supporting artists who have won opportunities to exhibit their work overseas. By reporting and sharing the results of these efforts on this site, we will boost the international profile of contemporary artists. (In FY 2020, online webinars have been held in place of in-person workshops)

国際的な専門家の相互ネットワーク構築のための招待制ワークショップ(2020年度は公開ウェビナー)を開催するほか、国際的な評価を高める上で重要な機会を得た作家への支援や、国際シンポジウムの開催などを実施します。本サイトでその成果を報告・共有することで、現代美術作家の国際発信を後押しします。

Latest Events

August 2020-January 2021
Bunka-cho Art Platform Japan Webinar Series: Contemporary Art After the Coronavirus and Its Ecology
Due to the current coronavirus epidemic, immense challenges have been posed to both arts institutions and contemporary art professionals across the globe. This program aims to discuss and exchange both concrete and speculative ideas regarding the global dissemination of the arts in the post-pandemic era. The program also aims to cover the conducive research into the most potentially suitable forms of future international exhibitions for arts institutions. *Archived videos and transcripts (Japanese and English) are in preparation.

[Bunka-cho Art Platform Japan Webinar Series](#)

最新のイベント

2020年8月～2021年1月
文化庁アートプラットフォーム事業 連続ウェビナー「コロナ以降」の現代アートとそのエコロジー
本プラットフォームは、世界的な美術市場および現代アート関係者にも多大な影響をもたらしているコロナ禍という状況下において、新たな芸術の事業が対峙している様々な課題を議論し、どのような展開や可能性を導き出すことができるのか、あるいは具体的なアイデアの交換やポスト・コロナの時代の海外展覧のあり方や将来の共同研究、新しい時代における国際的な展覧のあり方を視野にいれた議論へとつなげました。本アーカイブ動画および書き起こしテキストは順次掲載予定です。

[文化庁アートプラットフォーム事業 連続ウェビナー](#)

2019

September 11, 2019 symposium
The Globalization of the Art World and "Japan": Outlook into the current state and the future
Focusing on measures to promote contemporary art, "Bunka-cho Art Platform Symposium" aims to bring together people involved in contemporary art to share what is happening on the global front and to deepen discussions on why a platform for contemporary art is needed in Japan, what needs to be done to achieve this, and what possibilities can be explored.

[Bunka-cho Art Platform Japan Symposium](#)

Keynote: Osamu Shimomura, Hayashi Michio, Hisabiko Tsuyoshi, Ichi Takayoshi, Kazuhiko Nami, Katsuyama Mari, Tetsuji Hiroe

2019

2019年9月11日 シンポジウム
グローバル化する美術界と「日本」:現状と未来への展望
現代アートの美術市場に、文化庁アートプラットフォーム事業が果たすべき役割をテーマとした「文化庁アートプラットフォームシンポジウム」現代アートの発展が、グローバルの展開を促していることを共有する。なぜ日本において現代アートのプラットフォーム形成が必要なのか、そのために何をすべきなのか、どのような可能性が期待できるのかについて、議論を深めることを趣旨で開催しました。

[文化庁アートプラットフォームシンポジウム](#)

Keynote: Osamu Shimomura, Hayashi Michio, Hisabiko Tsuyoshi, Ichi Takayoshi, Kazuhiko Nami, Katsuyama Mari, Tetsuji Hiroe

March 16, 2019 symposium

How to Effectively Carry on Art Assets into the Future: Proposals for Legal and Institutional Design for a Collecting Culture
From the standpoint of protecting, increasing Japan's art collection and making the most of it for society, panelists discussed specific measures to increase the value of cultural and artistic assets, including legislation, the development of a full-time conservatorship system for museums, tax reform and the fostering of a culture of collectors, the exchange and rental of works between museums and collectors, and the importance of publicizing related activities.

[Bunka-cho Symposium](#)

Keynote: Naoyuki Hirakawa, Issei Kikuchi, Kazuhiko Tsukada, Kenjiro Junjo, Kazuhiko Tomoda, Takahata Akira

2019年3月16日 シンポジウム

芸術資産をいかに未来に継承発展させるかーコレクター文化育成のための法律・制度設計の具体的な提言ー
日本の美術コレクションをまもり、増やし、社会に活かしていくという観点から、文化・芸術資産の価値評価を高めるための具体的な方策について、保存修復家の美術品管理の経験、税制改正及びコレクター文化の育成、美術館やコレクション間で所蔵作品交換やレンタル、関連アーティスト公開の重要性などを中心に、法整備を促す具体的な提言がなされました。

[文化庁主催シンポジウム](#)

Keynote: Naoyuki Hirakawa, Issei Kikuchi, Kazuhiko Tsukada, Kenjiro Junjo, Kazuhiko Tomoda, Takahata Akira

2018

November 30, 2018 symposium
Passing on Artistic Assets to Future Generations through "Evaluation": The Expected Role of Art Museums
Speakers were invited from various fields, including economists, art historians, and architects, as well as those involved in art museums, to discuss the importance of utilizing cultural and artistic assets, measures to raise the value of such assets, and the state of art museums from various perspectives.

[Bunka-cho Symposium](#)

Keynote: Asagiri Masanori, Inasaki Kaori, Kajita Kenji, Nawa Kohji, Shibayama Keiko, Tane Tsuyoshi, The Assessment of Artistic Assets

2018

2018年11月30日 シンポジウム
芸術資産「評価」による次世代への継承ー美術館に期待される役割ー
文化・芸術資産の重要性や、そうした資産の価値評価を高めるための方策、美術館の在り方等に関して、美術館関係者のみならず、経済学者、美術史家、建築家など様々な分野からスピーカーを招聘し、様々な立場から議論しました。

[文化庁主催シンポジウム](#)

Keynote: Asagiri Masanori, Inasaki Kaori, Kajita Kenji, Nawa Kohji, Shibayama Keiko, Tane Tsuyoshi, The Assessment of Artistic Assets

Suggest edits for this page

このページの修正を提案する

<本件に関する報道関係お問い合わせ先>

文化庁アートプラットフォーム事業 PR 担当 島林
TEL : 080-6589-1234 FAX : 03-6734-3816
E-mail : press@bunka-artplatform.jp